

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

# 大学礼拝

WORSHIP SERVICE

2009 年  
クリスマス特集号



CHAPEL NEWS

第 111 号

## 巻頭言

# 「地の塩とは」



宗教部長  
佐々木 哲夫

**受験生**が質問にきました。聖書の言葉「地の塩」の意味を教えてくださいというのです。聖書の箇所は、マタイの福音書です。

あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。

(五章三節)

この聖句について少なからず説教する機会がありましたので、即答することもできたのですが、あえてそれをせずに次

のように答えました。「入学許可を得て本学の学生になると、大学礼拝での説教やキリスト教学での講義など、『地の塩』の意味について考える機会は沢山あります。まず、自分でその意味について探求してみたいかがですか。探し求めても分からないときは、卒業までには是非もう一度質問しに来てください」と。

高校卒業まで、皆さんは、多くの知識や技術を修得してきました。定理を巧みに使って数学の問題を解くこと、また、世界史や日本史の出来事の時代背景など、積み上げてきた量は膨大です。ところで、大学では、皆さんの知識や技術にさらに磨きをかけるだけでなく、それを含めたすべての事柄に対し「なぜ」と問い掛けることを期待しています。自

明と思われる事柄にさえ「なぜ」を投げ掛けるのです。極端に言うならば、幼稚園の園児のように、見るもの聞くものすべてについて「なぜ、なぜ」と問うのです。しかし、幼稚園の先生と違い大学の先生は簡単に答えを教えてくださいません。なぜなら、最初の答えは、疑問を持った学生自身が出すべきだからです。換言するならば、「この事について、このような疑問をいただき、次のように考察したのですが、答えはこれで良いでしょうか」と問うべきなのです。

皆さんは、東北学院大学でさまざまな聖句と出会います。「地の塩」もその中の一つです。「地の塩としての生き方とは何か」については是非探求していただきたいと願っています。

# 「クリスマスに献げる」



理事長  
平河内 健治

皆さんがクリスマスを祝う時、その喜びを分かち合うために、プレゼント交換をするのが通例かと思えます。キリスト者の信仰では、その元には、どんなに人間的に努力し避けようとしても、道義的社会的に他人を傷つけ罪（sin）を犯してしまう人間の性の贖罪のために、神のひとり子イエスがこの世に遣わされ、我々の身代わりとなって十字架上で刑を受け、イエスの甦りによって、「ひとりも滅びないで、永遠の命」がプレゼントされるようにしてください。神の愛への感謝と応答の喜びがあります。

それはイエスを霊の導きによってキリストとして受け入れることができる時、自分も一日一日新たに甦る生活ができる喜びを味わえるというものです。この恵みに応答して、自分もまた友のために命を捨てる生活を自ずと約束できるように

（詩篇五一篇）が献げられ、ただ神にのみ聴くというものです。礼拝の儀式の中で献げられる献金も全身全霊を神に献げる徴として行われます。自分の都合のよいことに用いられますようにではなく、神様の業にお使いくださいという祈り、一切は神様の手に委ねますという神様への応答をもって献げられるものなのです。同時に、自分は神様の御用のために献身しますという決意表明でもあります。パウロは「自分の体を神に喜ばれる聖なる生きるいけにえとして献げなさい」（ロマ書十二：一）と述べます。昨年の大学クリスマス礼拝の際に、クリスマス礼拝では、毎朝の礼拝と違って、お金をとられるので、出ないと言った人がいたということを知りましたが、献金は参加費や会費とは異なり、強制されるものではありません。献金は慈善事業や福祉施設等に贈られますが、同情

による義捐金の類とも異なります。ともすれば、同情からは、他人をかわいそうな存在とみなし、自分が上に立つ傲慢さが出てしまいます。そうなる、打ち砕かれた霊をもって献げるということからは遠ざかってしまいます。神様の御用をしている事業団体に献金を献げることは、神に仕えることを意味します。隣人に愛を注ぐ時、そこに霊的交流という恵みが与えられ、イエス・キリストの愛の臨在を感じ取ることができます。イエスは最後の審判の時の王の言葉として、「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」と述べ（マタイ二五：四〇）、このことを私たちに教えております。このことは普段の人間関係でも可能なことです。日本自動車連盟の月刊誌『ジャフメイト一〇月号』に、星野富弘さんの「くるみ」という詩・画が載っています。詩は次のようなものです。

くるみの実がみのると  
石を投げたくなる  
青い塊がはじける  
澄みわたった水面に

になります。無心の生活と言ってもよいと思えます。そのような自分を神に献げる生活です。その中心になるのが礼拝です。ご存知のように、礼拝は英語では Worship Service と呼ばれ、神に仕える (serve) という意味が明確に示されています。無心のころ、打ち砕かれた霊

による義捐金の類とも異なります。ともすれば、同情からは、他人をかわいそうな存在とみなし、自分が上に立つ傲慢さが出てしまいます。そうなる、打ち砕かれた霊をもって献げるということからは遠ざかってしまいます。神様の御用をしている事業団体に献金を献げることは、神に仕えることを意味します。隣人に愛を注ぐ時、そこに霊的交流という恵みが与えられ、イエス・キリストの愛の臨在を感じ取ることができます。イエスは最後の審判の時の王の言葉として、「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」と述べ（マタイ二五：四〇）、このことを私たちに教えております。このことは普段の人間関係でも可能なことです。日本自動車連盟の月刊誌『ジャフメイト一〇月号』に、星野富弘さんの「くるみ」という詩・画が載っています。詩は次のようなものです。

石を投げたくなる  
水を切る 石にのって  
私も飛ぶ  
石を投げたくなる  
打ち寄せる波にむかって  
たまたなく 石を投げたくなる  
星野さんは、ご存知の方もあるかと思いますが、二四歳のとき、体育教師として指導中に脊椎を損傷し、首から下の運動機能を失い、絵や詩は筆を口に加えて描いています。クリスマスチャンに「なられた方です。この詩・画に対して、高校時代からの親友の館内端氏が「そうだったんですね。私に飛んできた石は、水面を渡ってきたんですね」という投語を寄せ、星野さんは「君に当たった石は沢山の実に、私に落ちてきました」という答語で応答します。投げられた石は愛と友情の霊的プレゼントを示していることと捉えることができます。信仰にあつては、それが神様の豊かな霊的恵みとなって自分に返って来ます。クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝うだけでなく、全身全霊を献げることによって、新しい自分が誕生することをも祝う時であります。ハレルーヤ!!

クリスマスにあたり東北学院大学  
創立当初の先人の思いに触れよう

## 3L精神と地の塩・世の光 「先人の著書にも学びたい」



学院長・大学長  
星宮 望

に再建された東北学院中学部の新校舎の正面入り口に掲げられていた言葉です。その時以来、東北学院スピリットを象徴する3L精神として親しまれてきております。この3L精神と同様に、長年、東北学院の在校生・卒業生に大切にされてきた聖書の言葉に「地の塩・世の光」があります。これは、新約聖書

時間をかけて「フランス革命史」を書き上げたということです。このような高尚な生涯を送った人がいることを覚えたいと思います。

東北学院大学では、毎朝の学校礼拝を重視しています。クリスマスをむかえるにあたり、ぜひ聖書から学び、教職員の先輩からの言葉にも耳を傾けていただきたいと思います。また、内村鑑三をはじめとする、優れた先人たちの語りかけにふれるための読書もお薦めします。

**東北学院**はキリスト教を土台として創立された学園です。東北学院の創立者である、押川方義先生、ホーイ先生、シュネーダー先生の三人の校祖の先生方が本学を創立し、成長させてくださった、その心に近づきたいと思えます。さて、その心を表しているものの一つが、「LIFE、LIGH

MT、LOVE」という言葉です。これは、私が、一九五〇年代に、東北学院中学・高等学校に六年間通っていたときの東二番丁の校舎（現在では、中学・高等学校が小鶴新田キャンパスに移転したためにその面影はラーハウザー記念東北学院礼拝堂の地下にある記念資料室に行かなければ見ることはできません）に掲げられていた言葉でありますし、そのルーツを探れば、一九二二年（大正二年）の「仙台大火」の後

マタイ福音書五章三二―三六節に記されている言葉です。私は、東北学院中学・高等学校での六年間、毎朝の礼拝を通して多くのことを学びました。その中でも最も心に深くしみていたのがこの「地の塩、世の光」です。その後、大学生の頃に、このことに関する一冊の本に出会いました。それは、内村鑑三著「後世への最大遺物」という薄い冊子です。これは、明治二十七年に箱根で開催されたキリスト教徒夏期学校での講話をまとめたもので、その後長い間読み続けられてきました。岩波文庫に収録されておりますし、今ではインターネットで検索しても見ることが出来ます。

内村鑑三は、後世に残すものとして、まづ金（財産）をとりあげ、例えばフィラデルフィアのジラードという人がその財産を

社会のために捧げるとして、世界一の孤児院を残した話をしています。そして、次はいくつかの土木事業や治水事業などについても触れています。そして次には、文筆や教育についてこの世に良いものを残すことを述べています。いずれについても大変示唆にとんだ話がつづきます。しかし、最後に内村鑑三が強調したことは、これらに「いずれでもなく、「勇ましい高尚なる生涯」が後世への最大遺物であって、これは誰にとっても可能なことであるといっています。その一つの例として、トーマス・カーライルが有名な「フランス革命史」を書いたときの逸話を紹介しています。彼が、広く材料を集めて、長年の歴史の研究成果をまとめて、ようやく書き上げた原稿を友人に貸したところ、その友人が明け方まで読んで寝入っている間に朝早くきてストーブの火をつけにきた下女がその原稿を燃やしてしまったということ。そのことを聞いたカーライルは腹を立てたことは当然ですが失望のあまり「〇日ばかりぼんやりとして何もしなかったさうです。しかし、彼らえなかったところは、「実にそのことで失望するような人間が書いた『革命史』を社会に出しても役に立たぬ。それゆえにもう一度書き直せ」と自分を鼓舞して再び長い





# Christmas Message 「光を迎える」



キリスト教学科長  
原口 尚 彰

節です。各キャンパスの礼拝堂の聖壇も飾り付けがなされていますが、これは神の子の誕生を祝うクリスマスを迎えるための準備であり、灯が点つたろうそくの数が増えて、もう少しでクリスマスというところまで来ました。

ヨハネによる福音書は物語の初めから、光と闇ということ語っています。この部分は天地創造における光

光が輝いているならば、そこに引き寄せられるように人が集まり、光を受け入れるのは自然なことでしょう。しかし、人間の世界には暗い闇の部分があり、光を避けようとする傾向があるのも事実で、光の存在は光に来る者と闇に留まる者の対照を明らかにします。

ヨハネによる福音書一章四節以下には、「言の中に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中に輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」と書かれています。ここで、「光」と呼ばれているのは

心を必ずしも豊かにも幸福にもしません。便利になる生活の中で、人の心はむしろ荒れずさんでいるようにも見えます。心が明るいと云うならば、そこには喜びや満足、そして平和と希望がなければなりません。人と人との間には何よりも、信頼がなければなりません。しかし、世界には戦争や争いが頻発し、テロや犯罪の危険も増大し、人が人を十分に信じられなくなっています。特に、昨年以来の世界同時不況の影響によって人々は将来に希望が持てず、不安の方が勝っているように見えます。

アドヴェントは光であるキリストを迎える準備をする季節です。キリストの光は勿論目に見える光ではなく、人間に神の真理を知らせ、心を照らして明るくし、希望と平和を与える光です。今は、冬至に向かう時期で一年の中で夜が一番長く、

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。

(ヨハネによる福音書 一章一―九節)

ヨハネによる福音書は物語の初めから、光と闇ということ語っています。この部分は天地創造における光

ヨハネによる福音書一章四節以下には、「言の中に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中に輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」と書かれています。ここで、「光」と呼ばれているのは

心を必ずしも豊かにも幸福にもしません。便利になる生活の中で、人の心はむしろ荒れずさんでいるようにも見えます。心が明るいと云うならば、そこには喜びや満足、そして平和と希望がなければなりません。人と人との間には何よりも、信頼がなければなりません。しかし、世界には戦争や争いが頻発し、テロや犯罪の危険も増大し、人が人を十分に信じられなくなっています。特に、昨年以来の世界同時不況の影響によって人々は将来に希望が持てず、不安の方が勝っているように見えます。

各キャンパスのメッセーじ

*Tzumi*

泉キャンパス

大学宗教主任

永井 義之



かつて婚期を逃した女性をクリスマスケーキに例える言い方がありました。二月二五日を過ぎると、飛ぶように売れたクリスマスケーキは安売りされることから、二五歳を過ぎた女性は婚期を逃したので安売りするしかないというものでした。今では男女とも結婚適齢期が遅く晩婚化が進み、「二五日を過ぎたクリスマスケーキ」という言い方は過去のものとなりました。

そもそも、クリスマスは二五日で終わるものではありません。二月二五日をはさんで二五日までの四週間は待降節(アドベント)としてクリスマスを迎える準備の期間とされ、さらに二五日以降は二月六日までの二週間、合わせて全部で六週に及ぶ期間がクリスマスシーズンとされます。日本では年中行事として正月がすぐ来るので、二五日過ぎるとクリスマスのさまざまな飾りは撤去されますが、クリスマスはまだ終わってはいません。

*Tagazyo*

多賀城キャンパス

大学宗教主任

野村 信



クリスマスをお祝いする季節がやってきました。今年は、特に政権交代、経済不況、雇用問題など、社会的に変動の大きい年でしたから、心を落ち着かせてクリスマスを祝う気分になれない人々も多いかもしれませんが、こんな時代だからこそ、心を静め、向こうからやってくるお祝いを喜んで受け止めたいと思います。

クリスマスは、向こうからやって来るのです。もちろん時がこの日を選んでくるとも言えますが、しかしクリスマスは、讃美歌二五番にもあるように、「人みな眠りて知らぬ間にぞ、み子なるキリスト生まれたもう」日なのです。

クリスマスは、まさにすべての人々へ、天からの贈り物を喜ぶ日です。みなさんも家族や友人とクリスマスの贈り物を交換したり、受け取ったりすると思いますが、神様からの最大のプレゼントが私達にもたらされたことをご一緒に喜びたいと思います。

*Tsuchitoui*

土樋キャンパス

大学宗教主任

北 博



クリスマス・シーズンがまた巡って来ました。大通りは光のページェントの電球が眩しく輝き、アーケードは色とりどりのイルミネーションで飾られています。通りではクリスマス・ソングが流れる中で、歳末助け合いの呼びかけが響きます。ひよつとすると、軍服姿にラッパと「社会鍋」が人目を引く、救世軍の人達を見かけるかもしれません。あるいは、イヴの夜にはキャロリングの行列に出くわすかもしれません。皆さんは今年のクリスマスに、どのような思い出を残すことになるのでしょうか。

でも、忘れないで下さい。この寒空にタンポールの中で震えながら野宿をしている人のこと、戦火に家を焼かれ、不安に脅えながら難民生活をしている人のことを。今年、米国のオバマ大統領は、核廃絶へ向けた強いメッセージで世界の共感を呼び、ノーベル平和賞を受けました。イエスの誕生を告げる天使の二団が野宿の羊飼ひ達に残したメッセージを、私達も声にしましょう。

「地には平和、御心に適う人にあれ。」

(ルカ福音書二章一四節)



## 1 クリスマスって何ですか？

クリスマス（キリストのミサ）とは、イエス・キリストの誕生を祝うためのミサ（典礼もしくは礼拝）のことです。どうして、イエス・キリストの誕生が、クリスマスとして特別に祝われるのでしょうか。

第一に挙げられる理由は、神が人となられたという出来事だからです。即ち、被造物の世界において、換言するならば、人間の五感で認知し思考できる世界において、神が人間と出会われたという出来事だからです。

第二に挙げられる理由は、旧約聖書の預言者たちが待望していた救い主（メシア）の誕生だったということです。それは、

贖いの業（十字架の出来事）によって人間の罪を赦すという救いを実現する神の子の到来でした。ペテロの手紙は、そのことを「イエス・キリストは」十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました」（ペテロ二章二四節）と証言しています。

六世紀の修道僧ディオニシウス・エクシグウスは、聖書に記載されている年代とローマ皇帝の治世年数とを累積対照することによって、イエス・キリストの誕生の年数を割り出し、それを境に歴史を紀元前 (B. C. = Before Christ)

と紀元後 (A. D. = Anno Domini) に二分しました。それほどに、イエス・キリストの誕生は画期的な出来事だったので。

皆さんは、クリスマスをどのように理解しているでしょうか。それは、クリスマスの日に何をすることで明らかにされます。プレゼントを交換する、みんなで楽しくパーティをするなど様々でしょう。今年のクリスマスは、東北学院大学の礼拝堂やキリスト教会で行なわれるクリスマス礼拝に出席し、本当のクリスマスを味わっていただきたいと思います。

## 2 なぜ 12月25日 が クリスマスなのですか？

四世紀ローマ帝国の国教となったキリスト教は、その後ローマ帝国が東西に分裂したのに伴い、ローマを中心とする西方教会とコンスタンチノーブルを中心とする東方教会に分かれました。クリスマスの祝い方においても両者の間に違いが生じてきました。

西方教会（ローマ・カトリック・プロテスタント）の伝統では、三世紀の末頃からキリストの誕生日として守られて来ました。東方教会（ギリシヤ正教系）

では四世紀頃から一月六日公現日に降誕を同時に祝って来ましたが、西方教会との調整を経て、十二月二十五日には異邦人への救い主到来を祝うようになりました。

なぜ十二月二十五日なのかについては、古代教会で考えられていた独特の歴史観にもとづく日にちの算定があるようです。また、冬至に近いことから異教の「太陽の誕生」祭に対抗して「義の太陽」（＝キリスト）の出現を祝ったものであるとも言われますが確かなことはわかりません。ひとつ確実なことは四世紀から五

世紀にかけてキリストの受肉と人格に関する論争があり、キリスト養子論の、異端説を退けるために、キリストは神の御子として誕生されたことが東西両教会で強調されたという事実です。つまり、クリスマスを十二月二十五日に祝うということは「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」（ルカ二・十四）という、神の御子が人間の形をとり（受肉）、私たちの近くにおいてくださったことを意味します。



# キリスト教 Q & A



## 3 クリスマスはキリスト教の他の行事と比べてどのくらい重要なのですか？

**キ**リスト教の主要な行事は、イエス・キリストの生涯に由来しています。例えば、イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス（降誕日）、東方の占星術者たちが訪れて主イエスを礼拝したことを記念する公現日（顕現日）、復活日の四〇日前の水曜日（六回の日曜日を除く）を灰の水曜日、また、この四〇日間を四旬節（受難節、レント）と呼び、特に、四旬節最後の週を受難週（Passion Week）と呼んでいます。受難週の金曜日は、イエス・キリストが十字架につけられた聖金曜日（Good Friday）、次の日曜日は

復活日（イースター）です。復活日から五〇日目の日曜日に聖霊が降り、教会が誕生しました（聖霊降臨日＝ペンテコステ＝五旬節）。このようなキリスト教行事を織り込んだ暦を教会暦と呼んでいます。この暦は、クリスマス前の四主日を含む一月六日までの期間である待降節（アドヴェント）の第一主日から始まり、さて、教会暦と直接関係しない行事もあります。聖餐式、洗礼式、幼児祝福式、母の日、花の日、収穫感謝日、婚約式、結婚式、葬式、昇天者記念式などです。いずれの行事も意義深いもので、その重要さに優劣をつけることは難しいことです。しかし、強いられるならば、

クリスマスとイースターを双璧として挙げることもできるでしょう。特に、クリスマスは、東北学院大学の学事暦の中においても公にされており、大学クリスマス礼拝としてまもられています。

## 4 大学でのクリスマス礼拝ではどのようなことをするのですか？

**大**学礼拝はふだん一時間と二時間の間の三十分のなかでおこなわれています。しかし、大学クリスマス礼拝は冬休み前の直前、十二月の最終講義日午後から各キャンパスで行なわれます。特別な礼拝と位置づけられ、春、秋の特別伝道礼拝のように時間も毎日の礼拝より延長されています。この日には特別講師によるクリスマスメッセージと特別編成の学生合唱団による「メサイア」（ヘンデル作曲）が演奏されます。

世間一般でも年末助け合いなど、この時期に寄付を募っていますが、私たちも礼拝で集めた献金を、援助を必要とするさまざまな福祉施設やNPO団体、個人にその働きを助け励ますために送金しています。送金先及び送金額の詳細は、翌年一月発行の東北学院時報に掲載し報告させていただきます。ご了承ください。

大部分の一年生諸君にとっては、東北学院に入ってから初めてのクリスマス礼拝を今回迎えることと思います。いままで経験して来たクリスマスと大学で経験するクリスマス礼拝に違いはあるのでしょうか。ぜひ、クリスマスメッセージを通して本来のクリスマスとは何であったのかを

確認していただきたいと願っています。

また、献金を通して、私たちのわずかな献げ物であっても、それが必要とする人々に届けられ喜んでいただけるのは、このクリスマスの喜びのときにふさわしいものです。いままではクリスマスプレゼントといえば「受ける」だけのものですが、本当に必要としている人々に「与える」ことを学ぶのも、このクリスマスが意義あるものとなるのではないでしょうか。

「また主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すように・・・」（使徒言行録二〇：三五）

# 2009年度 宗教部の活動

## 通年

大学礼拝

礼拝(朝) 土樋・泉・多賀城キャンパス

月～土曜日

礼拝(夜) 土樋キャンパス

毎週水曜日

寄宿舎礼拝

泉女子寄宿舎

毎週月曜日

泉男子寄宿舎・旭ヶ岡寄宿舎

毎週火曜日

聖書研究会

土樋・泉・多賀城キャンパス

宗教部会 毎月

四月 『大学礼拝』一〇八号

(新入生歓迎号) 発行

二〇〇九キリスト教活動のハンド

ブック発行

第一四回スプリングカレッジ(二八日)

五月 春季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

・泉 (二三日)

・土樋キャンパス「朝」(十四日)

説教者 深井智朗 教授

(聖学院大学総合研究所)

・多賀城 (二三日)

・土樋キャンパス「夜」(二三日)

説教者 高橋 潤 牧師

(名古屋学院院長、日本基督教団)

中京教会

六月 『大学礼拝』一〇九号

(春季特別伝道礼拝特集号) 発行  
礼拝奉仕者懇談会

・土樋 (二〇日)

・多賀城 (二六日)

・泉キャンパス (五日)

七月 キリスト者推薦学生との懇談会(七日)

第三三回青山学院大学合同

チャブレン会議(二四～二五日)

八月 第三五回サマーカレッジ (四日～六日)

九月 第五五回教職員修養会(一日～二日)

講師 柏木哲夫氏

一〇月 秋季宗教教育強調週間

特別伝道礼拝 (金城学院大学長)

・泉 (六日)

・土樋キャンパス「朝」(七日)

説教者 磯貝暁成氏

(関西学院初等部部长「校長」)

・多賀城 (七日)

・土樋キャンパス「夜」(七日)

説教者 水口 洋氏

(玉川聖学院中等部部长「校長」)

『大学礼拝』一一〇号

(サマーカレッジ・秋季特別伝道

礼拝特集号) 発行

二三月 第二回泉キャンパスクリスマス

キリスト者推薦学生との懇談会

(四日)

『大学礼拝』一二二号

(クリスマス特集号) 発行

大学クリスマス

・土樋・泉 (九日)

・多賀城キャンパス (二〇日)

説教者 楠本史郎氏

(北陸学院理事長・学院院长)

二〇一〇年

一月 第四回キリスト者教員研修会(二五日)

二月 礼拝オルガニスト懇談会 (二五日)

三月 大学礼拝説教集 第一四号発行

研修会・修養会発題報告集発行

## 編集後記

一年生の皆さんにとっては大学生として初めてのクリスマスを迎える時期となりました。キリスト教を文化的背景として持っている国々で盛大に祝われることはご存じのとおりです。キリスト教を建学の精神とする東北学院大学にあってクリスマスを祝うことには特別な意味があります。この大学のバックボーンをなす精神を理解する意味でも、今までにはないクリスマスを迎えてほしいと願っています。

(NA)

二〇〇九年十一月 東北学院大学宗教部  
〒九八〇-八五二

仙台市青葉区土樋二丁目三番一号